

協議会ニュース

創刊号

愛知県自然観察指導員連絡協議会

57. 8

機関紙創刊に思う

会長 大竹勝

自然観察指導員のライセンスを取得はしても、学校教育と違って、自然保護教育には体系もなく指導要領もありません。これは各自が自ら作り上げるしかないことは言うまでもありませんが、自然観察指導員は単なる自然のものしりでもなく、自然知識の切り売りが目的でもありません。常に自然に対し自己研鑽をしなければなりませんが、大切なことはそれにとどまらず、自然と人の媒体として自然と対応し、共に自然から学ぶ必要があります。

小さな自然観察会を主催しながら1人でも多くの自然を理解する仲間をふやしながら、指導者として自然保護教育の体系を作る努力をしなければなりませんが、そのためにも同一の目的をもつ指導員間の連携は重要なことです。本協議会も会員数が100名を越え、今年は50名の入会が予定されています。このような状況の中で、会全体として行動することは大変困難となり、会員からも支部の設置や、機関紙の発行を望む声が大きくなり、今回、会員の有志と事務局の努力で機関紙を発刊する運びとなりました。

非常にここやかなもので、全会員の意向を十分配慮しているとは申せませしが、今後、会員の意向を反映して内容を深め、各支部の活動や、全体の動きを把握していくだけるよう努力し、この機関紙を通じて会員相互の連帯を強めながら、愛知県の自然保護教育の推進を図りたいと考えています。

協議会・支部活動の充実を

奥三河自然保護研究会 代表者 石川静雄

自然保護思想の普及や、自然保護活動の推進を目的として、2年前に発足いたしました本会協議会は、私たち会員の中枢機能として益々発展することを願うものであります。

幸い、本会は県自然保護行政と一緒に情報交換しながら自然保護活動の推進に当ることができる立場にあり、私たちは指導員として資質の向上に一層努力してまいらなければならぬと思います。

本会も発足以来2年目をむかえ、会員も毎々増加してまいりましたが、一方組織の面におきましても、効率的な事業活動の一層の推進を図るために、支部組織についての規約の一部改正がなされ、各地区とも支部組織が結成されることになりましたが、私ども新城、南北設楽地区におきましても、5月に名称も奥三河自然保護研究会として発足し、年数回程度、自然観察会、研究会、懇親会等を行い、会員相互の親睦と知識の向上を図ることになりました。すでに私どもの支部では県立桜淵公園の自然観察会、作手高原長ノ山湿原の自然観察会を実施し成果をあげてまいりました。

私ども自然観察指導員は、指導員活動に必要な基礎知識を身につけ会員相互の連絡協調を図りながら、本会・支部の一層の充実に心掛けて期待に答えてまいりたいと思います。

葦毛湿原と私

東三河自然観察会 代表者 銭木友之

私の葦毛湿原との出会いは、戦後間もない頃であった。当時の私は休日を利用しては、昆虫採集のために手製のネットを手に、湿原付近の山野に出掛け蝶を追う日が多かった。その頃の湿原には現在のような不道や防護柵は勿論、案内板もなく人に出会うことも殆どなかつた。静かな自然の姿そのままで私を迎えてくれた

ものだった。

しかし、永い年月の間に、湿原を包む周囲の自然環境は人為による悪化が目立つが、昔日の面影の残る地域も少なくない。四季を通して通り続け今日に至った私の湿原詠も、今年あたりで1,000回を越しただろう。

素晴らしい自然が永続するためにも、ひと言申し添えたい。植物や昆虫などの採取は勿論、持ち込みは特に慎重に検討してほしいと。知らぬ間に奇種が植えられていたりして、新種の発見騒ぎが起きたこともある。ギフチョウなど絶滅の心配される種を、他所の産地のものを、飼育などして放つことが美談として報じられる事もよくあるが、型態などが産地により微妙に変化する種の場合、その種が定着したらと思う時、ぞっとするのは私だけではない筈であろう。

こうした状況の中で、我々自然観察指導員としては、正しい自然に関する知識の普及が非常に大切であると考える。

こんなこと考えています

西三河の自然を知る会 代表者 宮本敬之助

またカブトムシのシーズンがやって来ました。いまの子供達はカブトムシはデパートで買うものであると思っている、と言われて久しいことです。

私たちの子供の時分、カブトムシの大きさ比べに勝つために涙ぐましい努力をしたものです。夜明けと共に雑木林のそれもめざすクヌギやクリの大木の根方に誰よりも早く到達するために、あらん限りの知恵と努力をはらいました。

今の子供達だって、カブトムシは生きものであってデパートの屋上ではなく雑木林にいること位は知っています。また雑木林へ探しに入るより、デパートのエスカレーターに乗る方がより確実によりたやすく手に入ることも知っています。

雑木林がなくなったりとも事実ですが、そのそばを通ったとしてもその中に潜りこんで、新しい経験をしようとしなくなったことも事実です。高度成長のオトシゴ、PTAの輝かしい業績、だとか評論家先生はおっしゃっています。とにかく誰もがなんとかしたいと考えていることと思っています。

私達のやれることの一つとして、彼等といっしょになって朝露でビショビショになったり、クモの巣だらけになったりして、自然との接し方を勉強しましょう。その結果、いつの日か子供達がそのPTAを指導してくれるでしょう。

こんな気持ちで西三河の自然を知る会が歩んでいったらと考えています。

自然環境保護雑感

知多地方自然観察研究会 代表者 加藤寿芽

現在、東浦町自然環境調査研究団の一員として町内小中高校の先生方と、町内の森林植生、ため池の植生、動植物の調査をして、学校教育の資料づくりに努力しています。昭和56年度、57年度の2年間で完成するというものです。町内で植生調査の対象として高根山地区があります。自然の状態が一番よい山で、町の「緑のマスターープラン」にも自然環境良好の地であり自慢の対象地となっていました。私たちが活動開始の4月より僅か2ヶ月にして森林の半分が切り倒されて赤土がむき出しになってしまい、ため池の調査に行ってびっくり仰天。自然環境保護が目標で、発足した調査団として直ちに町役場に向い合わせた所、すでに開発を見込んで、私鉄関係不動産会社に売ってあり、個人企業のことに出しはできないとの返事。それを知って、何のための自然保護かと矛盾を感じます。このような事が、他の自治体にもあるかと思います。しかし、そんな事に負けず、自然観察指導員として自然保護に力を入れ、自然の大切さを子供達に教育していきます。

会員広場

虫の値段

竹内哲也（知多市）

5月初旬、某マーケットでタガメを販売していた。1匹2,000円也。そのタガメは大きさが揃い栗毛色で艶やかであった。子供の時に落とした大事なものを探し当てたような気がした。この地方でタガメを見なくなつてから久しい。私の知るタガメは水田沿いの小川でヒルやドジョウなどとともに採れた泥だらけで苔の着いたような自然のタガメである。この地方でタガメを自然環境の中で観察することは不可能だろうか、TVや標本などで観るのはやむを得ないことだろうが、タガメでなくてもよいから野外に出かけ、泥や草が匂う自然を通して本物の自然観察・純生の自然保護教育に近づきたいと念願している。参考までに当日販売されていた水棲昆虫の価格は次のとおりであった。

イニゴロウ 350円、コオイムシ 300円、ガムシ 250円、ミズカマキリ 150円、タイコウチ 300円、ヤンマのやご 150円。

竹島海岸の自然観察を 永井利幸（名古屋市）

7月中旬、私は蒲郡の竹島海岸へ行きました。竹島橋のたもとにわずかに残った砂浜。波打際に、コアジサシが純白の衣をきてひらりひらりと舞い飛ぶ姿。でも、ちょっと様子がおかしい。コアジサシのことではあります。波打際の波の色が変なのです。

「まくろ！」

墨汁のようです。たまたま居合せた地元の人の話では、海草のアオサが異常繁殖して岸に打ちよせられ、それが腐ってヘドロになるのだとのことでした。

でも、アオサはそんな簡単には腐らない。海は広いのだし、波によって絶えず酸素が補給されている。海中の微生物によって分解されることはあっても、腐敗してヘドロになるとは考えにくい。原因はもっと別のところにあるように思えます。蒲郡付近のみなさん、原因を調査がてら、自然観察会をやってみませんか。

「自然保護を考える座談会」 佐藤国彦（日進町）

なぜ自然を保護しなければならないか、どのように自然を保護すればよいかについて気楽に話し合ってみませんか。自然保護に関してともに考えるための会を開きますので希望者は下記へ電話してください。

- 期日 第1回 57.9.11（土） 14:00～17:00
第2回 57.9.15（水・祭日） 13:00～16:00
- 場所 中小企業センター7階第10会議室（名古屋駅前）
(第1回、第2回とも)
- 定員 各13名（先着順）
- 経費 1人370円位（会場借料、コーヒー代として）
- 申込 052-961-2111内線2462 佐藤国彦まで（夜間は05617-3-5674）
なお、11～12月にも再度行う予定です。

X X X × X X

「会員広場」のコーナーは、皆様方の投稿の場所としますので、積極的に原稿をお送りください。日頃、自然について考えていること、会員相互の呼びかけ、誌上討論、さらには調査、自然についての資料、観察会等について、他の会員に連絡することがある場合に利用してください。原稿は事務局（自然保護課保全担当）へお送りください。

〈協議会行事報告〉

1 総会及び研修会

昭和57年6月13日に東別院青少年会館において開催しました。

・総会 出席者 43名 書面表決 19名（賛成）

昭和56年度事業報告及び収支決算 可決

昭和57年度事業計画及び収支予算 ''

協議会規約の変更 ''

経理規程の制定 ''

・研修会 「自然保護について考える」

講師 脇田晴美（名古屋聖霊短期大学講師）

2 調査委員会 57.6.21 於短歌会館（名古屋市）

（結果）

・タニポポ調査は、58年度も引き続行う。調査方法は①個人、
②支部単位に重点地区を設けて行う、③一般参加により実施する。

・58年度は、タニポポ以外にも調査を行う。その内容は案を作
って会員に尋ねることとする。

3 編集委員会 第1回 57.6.13 於東別院青少年会館

第2回 57.7.17 於産業貿易館

4 支部の設置 7月までに次の4つの支部が設置されました。

名 称	設置日	代 表	庶 务	会員数
知多地区自然観察研究会	57.5.16	加藤寿芽	降幡光宏	18
奥三河自然保護研究会	57.5.23	石川 静雄	仙庄 鈴木利久、西郷洋男、小椋克好	12
西三河の自然を知る会	57.7.11	宮本敬之助	水鳥富人、川辺泰正	16
東三河自然観察会	57.7.18	鈴木反え	鈴木清	12

なお、他の地区については、次のように発足の打合せ会を行います。

- ・名古屋西部 57.8.22(13:30~) 於名古屋市公会堂
- ・名古屋東部 57.8.29(13:30~) 於名古屋市公会堂
- ・尾張 57.9.5(13:30~) 於中小企業センター

〈 行事案内 〉

1 支部の活動、

興味のある方は、他支部の方でも御出席ください。なお、詳細は当該支部の庶務担当者にお聞きください。

① 東浦町のため池の観察会 (知多支部)

57.8.23(月) 雨天中止 集合: 国鉄半田駅へ8:30
(参加者は、できるだけ乗用車で来てください。)

② 豊橋市葦毛湿原観察会現地調査 (東三河支部)

57.9.12(日) 午前中 詳細未定

③ 岡崎市真福寺寺叢観察会 (西三河支部)

57.10.24(日) 詳細未定

④ 美浜町美浜オレンジライン観察会 (知多支部)

57.10.24又は31(日) 詳細未定

2 県主催自然観察会

県は、一般募集の観察会を9月、11月の2回実施します。指導者は主としてその地域の自然観察指導員にお願いする予定です。

- ・57.9.23(不祝) 豊橋市葦毛湿原 (市営駐車場9:30集合)
- ・57.11.3(木・祝) 丈山市善師野周辺 (詳細未定)

(注) 参加希望者は、県自然保護課へ申し込んでください。

3 自然観察指導員講習会

県は、自然観察指導員養成の講習会を次により実施しますので、

近くに受講希望者がありましたら御連絡ください。

期日 57.10.9 (土) ~ 11 (月)

場所 いこいの村愛知 (足助町)

参加費用 14,600円 (当日徴収)

申込期間 57.8.20 ~ 9.13

申込方法 氏名、職業、住所、年令、電話、興味のある分野を記入のうえ返信用封筒を添えて自然保護課へ申し込んでください。

申し込み者が定員(60名)を越えた場合は、抽選のうえ決定します。なお、55、56年度に申し込んで抽選にもれの方は優先します。

4 自然観察指導員研修会 (日本自然保護協会主催)

- 9.25~26 石戸式植物検索法 於神奈川県 (募集50人)
- 58.2.26~27 雪上自然観察指導法 於岩手県 (募集40人)

希望者(指導員に限る)は、日本自然保護協会(03-503-4896)へ問い合わせてください。

〈自然観察会等の紹介〉

1 尾張野鳥の会

- 月例自然観察会 毎月第4日曜日 (9:30~12:00)

定光寺(瀬戸市、山門前駐車場に集合)

- 月例探鳥会 毎月第3日曜日 (8:30~12:00)

森林公園(尾張旭市、第1駐車場、大噴水集合、雨天決行)

- 月例探鳥会(庄内川河口) 9月5日(雨天中止)、10月3日、11月14日、12月12日、(1)ずれも10:00~12:00)

港区稻永公園、展望山集合

※ それぞれ事前申し込み不要、事前に新聞掲載

※ 問い合せ先 浅沼秀夫 (052-798-0006)

(午後9時前後のこと)

2回目河野鳥の会

○探鳥会 9月19日 宮崎展望台(吉良町) 9:00~12:00

10月17日 段戸裏谷(設楽町) 9:00~12:00

* それぞれ事前申し込み不要、新聞に事前掲載

* 向い合せ先 深見弘(0565-28-4958)

〈印刷物紹介〉

「津具村の植物」 56.3.10発行 P.305 大原準之助著

編集: 津具村の植物編集委員会、発行: 津具村教育委員会、
(津具村の植生、植物相、植物目録) 3,000円、

問い合わせ先: 津具村教育委員会

「竜美ヶ丘の自然」 56.2.10発行 P.168 有料

編集: 岡崎高校自然観察会、問い合わせ先: 中西正(会員)
(岡崎市竜美ヶ丘地区で見られる植物、動物の説明、観察方法)

「矢作川下流の植物」 57.1発行 P.106 高瀬和え著 500円

(矢作川の岡崎市より下流の植物相、植物の説明、図集、植物目録)、問い合わせ先: 高瀬和え(西尾市企画財政課電算係)

—編集後記—

協議会機関紙の創刊号がようやくまとまりました。内容につきましては、必ずしも皆様方の御希望に添ったものとは思いませんが、徐々に充実させていきたいと考えていますので、どしどし御意見をお寄せください。

機関紙の題名については、平凡かもしれません、当面は「協議会ニュース」とすることに、編集委員会で決まりました。発行は、年4回(8月、11月、2月、5月)といたします。

「会員広場」への投稿を始め、皆様が日頃行っている調査や活動の結果、地元の自然の紹介、各種情報など機関紙で発表できるものを積極的に事務局へお送りくださいようお願いします。